

活動情報



第 18 号



果樹におけるカラス被害防止対策を考える！

－ カラス被害対策機「CROW-AI」のテスト運用 －

管内関係機関で組織する飯塚地域担い手・産地育成総合支援協議会生産振興部会果樹部門の鳥獣被害対策展示ほとして、最新のカラス被害対策機「CROW-AI」のテスト運用を行いました。昨年カラス被害が甚大だった柿団地の一角に、10月の1か月間設置し、追い払い効果を検証しました。

「CROW-AI」とは、カメラと連動したAIがカラスを認識し、園に飛来した時だけ警戒音を発報することで音慣れを防ぎ、カラスの警戒心を持続させるものです。結果は、1日に3羽～20羽の範囲で1か月に300羽程飛来したうち、AIが正確にカラスを認識し発報した割合は95%で、果実に被害は確認できませんでした。

設置した生産者からは、「設置後、被害は減ったと思う」との一方で、「今年はカラスが少ないため効果はわからない」との声が聞かれ、効果は判然としなかったため、来年も継続して設置することになりました。

普及指導センターでは、今後も関係機関と連携して、作物の安定生産のため、鳥獣被害防止対策を支援していきます。



AIがカラスと認識



「CROW-AI」設置風景